

シンポジウム 2021/02/23

「外国人児童生徒の日本語学習支援をめぐるソーシャルネットワーク」

対話型アセスメント(DLA)をツールとした コーディネーターの実践と展開

井上 里鶴

(つくばにほんごサポート)

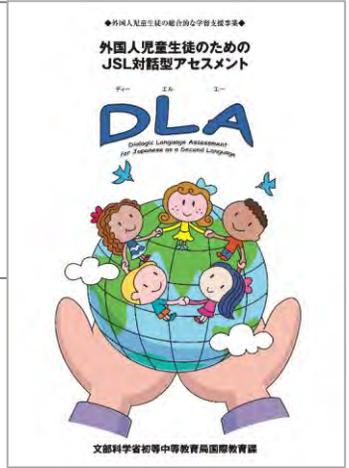
報告内容

① DLAの実施

② DLAの結果のアウトプット

③ DLAの課題と今後の展開

DLA概要



【対象】

日常会話はできるが、**教科学習**に困難を感じている児童生徒

【目的】

子どもの**ALP(教科学習言語能力)**を把握し、どのような学習支援が必要か、教科学習支援のあり方を検討する

【特徴】

一対一で向き合う「**対話**」を**基本**とし、一番早く伸びる会話力を使って、紙筆テストでは現れない子どもたちの**潜在的な力**を引き出す

DLAの実施

写真

- ・目的に沿って複数回実施。
- ・対面およびオンラインにより実施。

	実施方法	目的
1回目 DLA	対面	支援開始時における実態を把握する
2回目 DLA	オンライン	支援途中の学びやつまづきを把握する
3回目 DLA	対面 オンライン	将来の見通し等を検討する(次年度以降の予定)

9月

11月

3月

生徒Fの場合

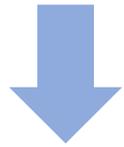
DLA【話す】

DLA【話す】

DLA【話す】【書く】

結果のアウトプットの流れ

1. 結果の分析



2. 個別の支援計画



3. 関係者との共有

1. 結果の分析

- ・診断シート
- ・質的評価シート
- ・JSL評価参照枠



< 診断シート >

■対話タスク■	
評価項目	評価
	□正答 □無回答 □に☑
■「先生に質問」カード(4)A,B	
(4)A ① 先生に許可を求める	□ □
(4)B ① 友だちに依頼する	□ □
■「新しい先生」カード(5)	
① 自己紹介をする	□ □
② 質問1	□ □
③ 質問2	□ □
■「友達を誘う」カード(6)	
① 会話を切り出す	□ □
② 誘う	□ □
③ 時間、場所の取り決め	□ □
④ 会話をしめくくる	□ □
■「キャッチボール事件」カード(7)	
① 起こったこと／してしまったことを伝える	□ □
② 謝る	□ □

評価の目安	評価結果
□正答：質問の意味を理解し、返答が自然で適切	/11 %
□無回答：質問が理解できない、返答が不適切、無回答	(/ %)
※文法上、語彙上の誤用があっても、ここでは減点とはしません。 p.35の質的評価の「文法的正確度」や「語彙」で評価します。	途中でやめた場合

< 質的評価シート >

DLA<話す> 《質的評価》		
話の内容とまとめ		
基礎・対話タスク達成度	課せられたタスクがこなせる	5 3 1
認知タスク達成度	内容が豊富でまとまりのある話、説明、理由、意見等と言える	5 3 1
文・段落の質		
文の質	自分で単文が作れる	5 3 1
段落の質	単文ばかりでなく、複文を使い、段落を構成できる	5 3 1
文法的正確度		
文法的正確度	正しい文法で話すことができる	5 3 1
語彙		
日常語彙	身近な日常語彙が使える	5 3 1
語彙の質 (教科学習語彙)	話題や内容に相応しい語彙を選んで、正しく使うことができる (教科学習語彙を含む)	5 3 1
発音・流暢度		
発音・イントネーション	自然な発音やイントネーション、だれが聞いてもわかる	5 3 1
流暢さ	やり取りが自然でなめらかである	5 3 1
話す態度		
話す態度	自分から進んで発言し、会話をリードできる	5 3 1
合計⇒ /10=平均⇒		

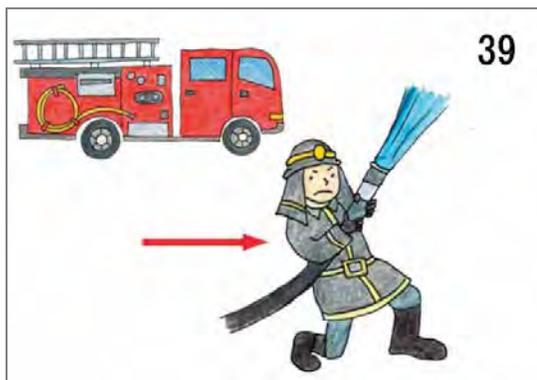
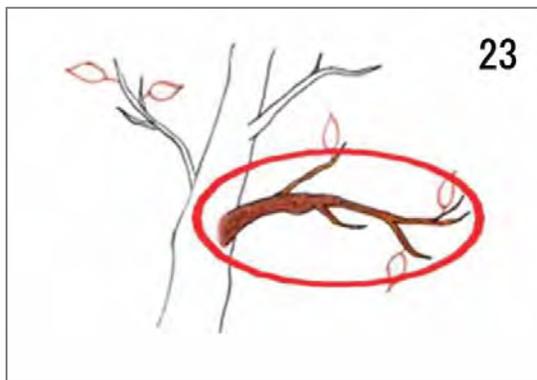
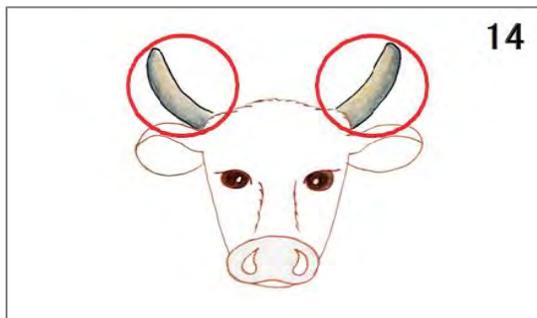
出典 : https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003/1345413.htm

<話す> JSL評価参照枠

出典： https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003/1345413.htm

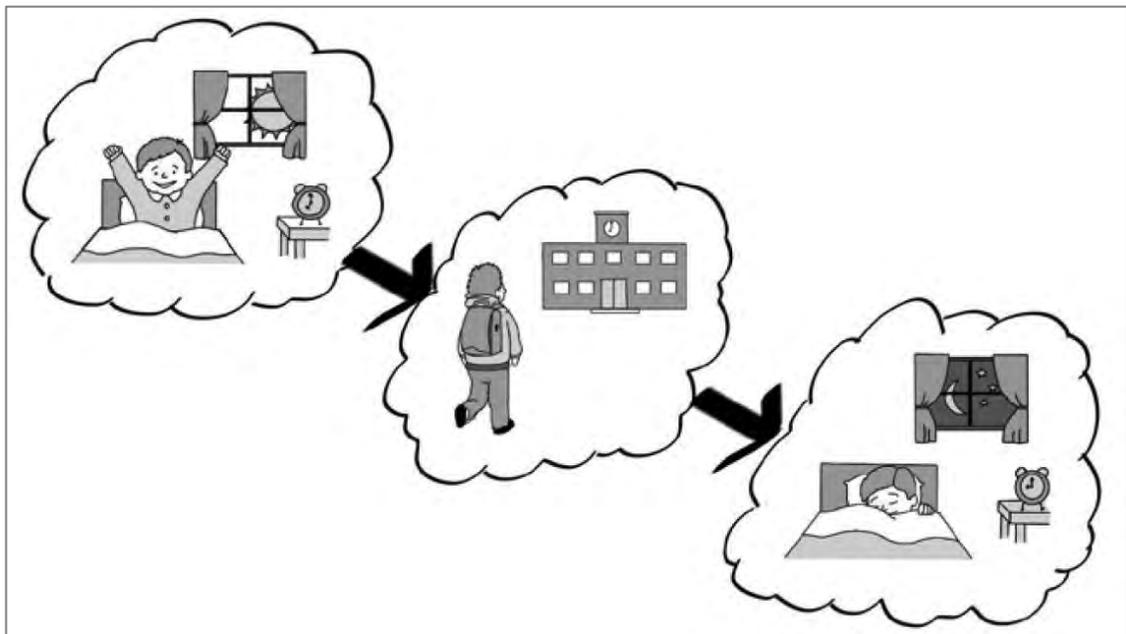
ステージ	話の内容・ まとめり	文・段落の質	文法的正確度	語彙	発音・流暢度	話す態度
6	<input type="checkbox"/> 年齢相応の教科内容と関連した認知タスクがこなせる	<input type="checkbox"/> まとまった話が1人でできる	<input type="checkbox"/> 文法的正確度が高い	<input type="checkbox"/> 年齢相応の教科学習語彙が使える	<input type="checkbox"/> 発音が自然で、流暢度が大変高い	<input type="checkbox"/> 自分から進んで発言し、会話を自らリードできる
5	<input type="checkbox"/> 年齢相応の教科内容と関連した認知タスクがある程度こなせる	<input type="checkbox"/> ある程度まとまった話ができる	<input type="checkbox"/> 文法的正確度がある程度高い	<input type="checkbox"/> 教科学習語彙がある程度使える	<input type="checkbox"/> 発音が自然で、流暢度が高い	<input type="checkbox"/> 様々な会話に積極的に参加することができる
4	<input type="checkbox"/> 対話タスクがこなせる	<input type="checkbox"/> 文を生成し、ある程度連文ができる	<input type="checkbox"/> 連文レベルで誤用がほとんど目立たない	<input type="checkbox"/> 日常語彙が使える	<input type="checkbox"/> 発音が自然で、流暢度がある	<input type="checkbox"/> 聞かれた質問に答えることができる
3	<input type="checkbox"/> 対話タスクがある程度こなせる	<input type="checkbox"/> 単文レベルの応答ができる	<input type="checkbox"/> 単文は生成できるが、助詞や活用などの誤用が目立つ	<input type="checkbox"/> 身近な日常語彙が使える	<input type="checkbox"/> 流暢度が低い	<input type="checkbox"/> 聞かれた質問にある程度答えることができる
2	<input type="checkbox"/> 基礎タスクがある程度こなせる	<input type="checkbox"/> 二語文	<input type="checkbox"/> 語順が乱れ、活用が不正確	<input type="checkbox"/> 基礎語彙が使える	<input type="checkbox"/> 流暢さなし	<input type="checkbox"/> 定型表現や知っている単語でコミュニケーションをとろうとする
1	<input type="checkbox"/> 基礎タスクの質問にいくつか答えられる	<input type="checkbox"/> 一語文	<input type="checkbox"/> 単語レベル	<input type="checkbox"/> わずかな基礎語彙が使える	<input type="checkbox"/> 流暢さなし	<input type="checkbox"/> ジェスチャーや表情でコミュニケーションをとろうとする

生徒の回答例：語彙力チェック



	間違えたもの
Bさん (ステージ5)	唇、(牛の)角、枝、引き出し、消防士、翼
Dさん (ステージ3)	まつげ、唇、(牛の)角、(ねこの)ひげ、枝、屋根、引き出し、 黒板消し、地図、運転手、医者、消防士、翼、着る
Fさん (ステージ2)	まつげ、唇、親指、爪、(牛の)角、(犬の)しっぽ、馬、ねずみ、 (ねこの)ひげ、木、葉、枝、扇風機、電話、屋根、階段、引き出し、 黒板、黒板消し、運転手、医者、消防士、翼、泳いでいる、歯を 磨いている、着る、怒る、短い、細い、軽い、背が高い

生徒の回答例：基礎タスク



カード (3) 日課

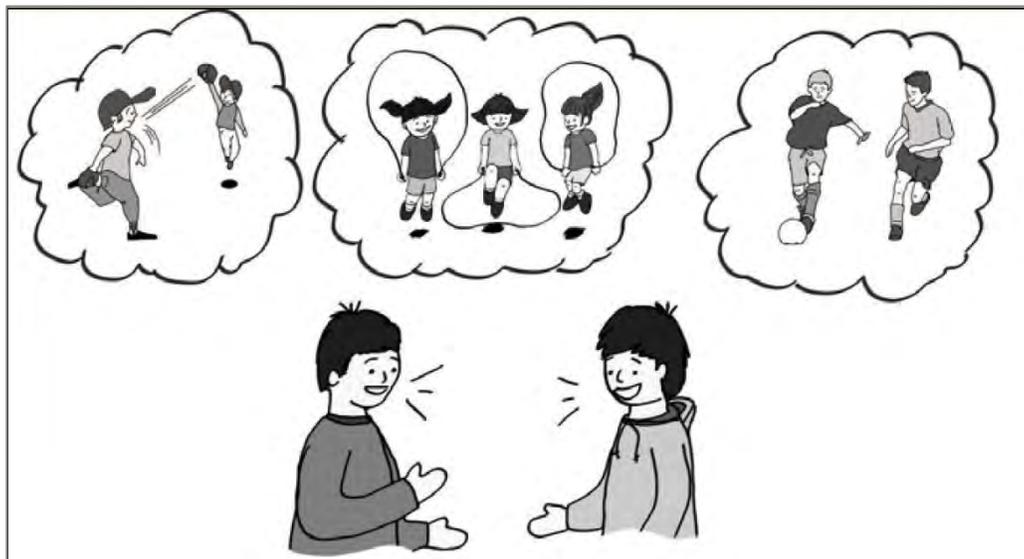
- ③いつも何時ごろ寝ますか。
- ④家に帰ってから、いつもどんなことをしますか。
寝るまでのことを話してください。

【ねらい】

- ③動詞の現在形を使って（習慣）が言えるか。
- ④「～て」を使って、動作を時系列でつなげることができるか。

Bさん (ステージ5)	③ いつも10時ぐらいに寝ます。 ④ ごはんを食べたり、宿題をしたり、スマホをしたり、11時ぐらいに寝ます。
Dさん (ステージ3)	③ 10時寝ます。 ④ ごはん食べます。10時寝ます。
Fさん (ステージ2)	③ 10時寝るです。 ④ わかりませんです。

生徒の回答例：対話タスク



カード (6) 友だちを誘う

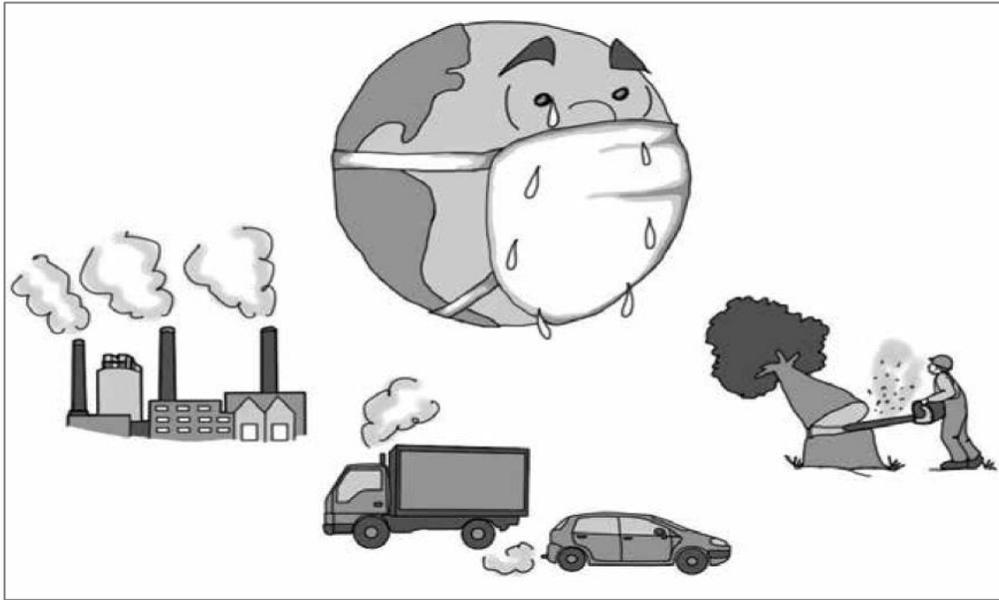
今日、学校が終わったら、〇〇さんと遊びたいです。
〇〇さんを誘ってください。下駄箱のところで会い
ました。

【ねらい】

子どもが自ら話を切り出し、誘い、時間、場所
などを決めて、会話をしめくくる力を見る。

Bさん (ステージ5)	今日遊ぼう。4時に公園でドッチボールしよう。
Dさん (ステージ3)	さそ…って何ですか。
Fさん (ステージ2)	わかりませんです。

生徒の回答例：認知タスク



カード（11）地球問題

- ①地球が泣いています。
どうして泣いていると思いますか。
- ②どうすればいいと思いますか。
- ③温暖化について学校で習いましたか。
温暖化がどうして起こるか説明してください。

【ねらい】

要因、仕組みについて教科の用語を使って説明できるかを見る。

Bさん (ステージ5)	<ol style="list-style-type: none">① 地球温暖化で泣いています。② 電気自動車を使って二酸化炭素が増えないようにする。森林を切らないようにする。③ 習いましたが、説明できません。
Dさん (ステージ3)	わかりません。
Fさん (ステージ2)	わかりませんです。

2. 個別の支援計画

DLAの結果に基づいて作成

DLA<話す>	正答率	間違えたところ	備考
導入会話 (16の質問)	88%	・友だちとどんなことをして遊びますか ・日本の学校で好きなことは何ですか	「～こと」が分からず答えられなかった様子。
語彙力チェック (55問)	75%	まつげ、唇、(牛の)角、(ねこの)ひげ、 枝、屋根、引き出し、黒板消し、地図、 運転手、医者、消防士、翼、着る	概ね回答できていたが、身近な語彙(運転手、医者など)が定着していない。
基礎タスク (18問)	100%	なし	全問正解。とてもテンポ良く答えることができた。
対話タスク (11問)	27%	カード(4) B①友だちに依頼する カード(5) ①自己紹介をする カード(6) 友だちを誘う①会話を切り出す、 ②誘う、③時間、場所の取り決め、④会話をしめくくる カード(7) ①起こったこと/してしまったことを伝える、②謝る	「誘う」「謝る」ということが分からなかった様子だった。 「誘う、って何ですか?」という質問が出た。
認知タスク (9問実施)	17%	カード(11) ①地球が泣いている理由を述べる、②対策の意見を述べる、③温暖化の要因について説明する カード(12) ①地震の経験について述べる、 ③地震の仕組みについて説明する	カード(11) (12) 実施 ※カード(7) ができていなかったため、(10) は実施せず。

令和2年度「オンラインによる日本語支援」個別の支援計画 (10月・11月)

生徒氏名	(年 組)					
日本語能力	2020年9月28日(月)DLA・話す実施。 診断の結果、JSL評価参照枠のステージ3の段階であると判断した。 ※ステージ6が最高			段階 JSL評価参照枠	【聴く】 【話す】3 【読む】 【書く】	
支援重点項目	<ul style="list-style-type: none"> ・内容が豊富でまとまりのある話、説明、理由、意見が言える ・単文ばかりでなく、複文を使い、段落を構成できる ・話題や内容に相応しい語彙を選んで、正しく使うことができる(教科学習語彙を含む) 					
支援計画と支援の内容						
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内容						
日本語基礎	文字：カタカナの復習、漢字読み書き(小学校レベル～) 語彙：学校生活および日常的なトピックから生活語彙を補強する。 文法：日本語の文法知識や定型表現等を復習する。					
技能別日本語	<話す>謝る・誘う・断る・申し出る・依頼する・提案する・お礼を言うなど、場面を設定して目的に応じた話し方を練習する。 <書く>日記や作文などで自分の意見をまとめる/説明する練習を行う。					
日本語と教科の統合学習	小学校レベルの学習言語として、理科・社会(身体部位、動物、植物、社会)の用語を使って説明したり、観察した結果を話したりする練習をする。					
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
時間数	週3時間	週3時間	週3時間	週3時間	週3時間	週3時間
備考欄						

画像左:DLAの結果票、画像右:個別の支援計画

3. 関係者との共有

- ・生徒1人1人の実態把握
- ・支援の方向性の確認

写真

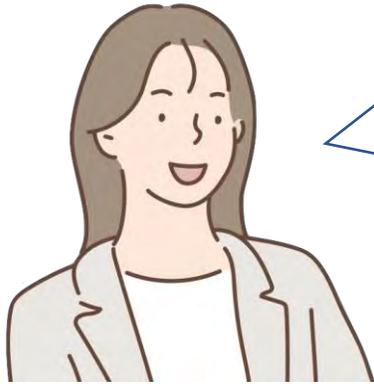
写真

DLA<話す>	正答率 ()は前回	間違えたところ	備考
導入会話 (16の質問)	100% (100%)	なし	テンポ良く答えていた。 友だちの名前もたくさん出た。 <u>学校生活を 楽しんでいることがよく分かった。</u> 学校は「楽しい！」と即答。前回もそうだ った。 ⑩ どうして楽しいか：友だちと遊べる、分 からないことも分かるまで教えてくれる。 ⑪ 日本の学校で好きなこと：きれい、先生

写真左：学校を訪問してのDLA結果報告会の様子

写真右：オンラインでのDLA報告会の様子

学校関係者の声



分析結果が子どもの実態を表している。
ふだんコミュニケーションがとれているため、気がつかなかった点、
子どもたちが困っているところが分かった。



日本語能力を的確に見とることができている。
これまで感覚で捉えていたことが客観的に数値で出ている。
個別の支援計画に結果が生かされている。

DLAの課題と今後の展開

- ・実施および結果のアウトプットまで多くの時間を要する。

- ・DLAを正確に実施する。
- ・結果を正確に分析する。
- ・具体的な支援の形に置き換える。
- ・関係者と共有し、説明する。

【今後の展開】

- ・DLAの実施および結果のアウトプットまでができる人材育成。
- ・オンラインでの実施により、遠隔地への支援の可能性。
- ・多方面をつなぎながら、実証研究を重ねていく。

